

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100024		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校悠ゆう		
所在地	甲府市武田2-8-17		
自己評価作成日	平成23年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。同法人内の児童養護施設が近くにあり、日々の生活の中で子供の姿や声を聞く生活がある。また、児童と一緒に外出する機会も多くある。職員と少人数で個別外出したり、近くにある同法人内のグループホーム入居者との交流も盛んで、一緒に外出したり、料理を作る機会も多くある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街にある一戸建ての民家を改修したグループホームであるので、あたかも自宅に居るような家庭的な雰囲気がある。手芸教室で吊るし雛を作ったり、巻紙絵画も作成している。毎食、利用者が小さいホワイトボードに献立を記入して、食事の前に発表している。利用者や職員全員が椅子に座ったところで、「いただきます」と掛け声をかけ、全員食が終わるのを待って「ごちそうさま」と言っている。利用者で合唱団を結成し、地区の文化祭で発表している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめだかの学校悠ゆう [セル内の改行は、(Altキー)+(E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の生きてきた過程と尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアにあたっている。	「尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごせるよう」を理念に掲げ、職員会議や日々の業務の中で話をして共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には声をかけてもらい、積極的に参加している。地域の商店や美容室を利用したり、日々の挨拶等で声を掛け合い、運営推進会議などを通して意見交流に努めている。	自治会に加入しており、回覧板を利用者と一緒に届けたりする。地域の運動会、餅つき大会、夏祭に参加している。文化祭には合唱団を組んで歌を歌ったり、作品を作り参加している。近所の人達とは、挨拶で関係作りをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症教室に講師として参加したり、町内会の集まりに参加して、機会毎に話をさせてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し、感想・意見を述べてもらっている。会議での状況は職員会議等で報告し、今後のサービスに活かせるように努力している。	管理者・ケアマネジャー・民生委員・地区社協の会長・家族の代表・地域包括支援センターの職員で2か月に1回開催し、事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合い、地域の理解と支援を得る為の働きかけをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取り合うと共に、困ったことや疑問点があった場合は市役所へ行ったり電話をし、相談にのってもらっている。	「地区外の方の場合、住民票を移動することによって入居が可能なのか」等、困ったことや疑問点があった場合は市役所に行ったり電話をして、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するよう職員会議や職員研修会を利用し、定期的に指導している。また、日々の業務の中においても声かけ等にも拘束が潜んでいることを周知徹底していきたい。	職員会議や職員研修会を利用して、全職員が身体拘束について理解を深めている。施錠については、安全確保のため夜間のみしている。「座って」「待っていて」等、言葉の拘束であることを理解するように指導し、気付いた時には、その都度注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大事にして、身体への虐待はもちろんのこと、言葉の暴力についても職員に注意を促している。入浴時や健康チェック時、体調の変調に注意し、気づくことの大切さも指導している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から制度について相談をされたことや制度を利用していた利用者もいたが、職員の周知までは至っていない。学ぶ機会を設けて活用していきたい。個々の必要性に応じ、本人・家族に適切に導入してもらうことが課題である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人と密に連絡を取り合い、不安な点や疑問点について納得・理解してもらうまで対応している。利用開始後も、納得し難い部分も出てくると思うので、随時対応している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時において家族から上がった意見・要望は、職員会議で職員に伝えられている。意見・要望は、運営に反映し、面会時や運営推進会議において報告している。	「駐車場をアスファルトにして欲しい」「新しい職員の名前が分からないので名札を付けて欲しい」等の要望があり、実際に駐車場整備を行った。新人職員については名札も付けたり、家族に自己紹介するよう指導している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や要望等を聞くよう心がけている。	利用者に「食後の薬を渡し忘れないようにするには」等の意見があり、表を作成しチェックすることにより、確認でき改善された。職員の個人面談に於いて意見を聞くように心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望等を考慮して、勤務表を作成している。能力ややる気に応じた昇給も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の内部研修会・月1回の職員研修会を行い知識や技術の向上に努めている。職員が講師を務めるため、相互の勉強の場にもなっている。外部の研修にも参加できるように周知し、学んだことを報告してもらい、勉強に役立てている。日々の業務の中でも介護方法等の実践として指導するようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつか事業所があるので、交流・研修は積極的に行っている。他事業所との相互訪問も行っており情報交換やサービス向上に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り、自宅や施設に訪問し顔合わせをしている。入居後、顔を合わせた時に安心してもらえるよう、支援に心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り合い、困っている事や不安なことに耳を傾け状況を理解し、安心してサービスを利用できるよう心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話聞き、その方の望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられるよう、また、誤解や不安を招かないよう話し合う機会をもつよう心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、時には娘や息子、孫のようにお互い打ち解け合い、和やかな関係作りができています。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族にしかわからない思いもあるため、それを壊さぬよう、また、少しでも共有させていただき支えていけたらと思っている。苦しい時には話してもらい力になっていきたい。そのためにも、信頼関係を築いていけるよう心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援	家族や本人から話しを聞き、今まで住んでい	昔から利用している美容院に家族の協力の		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	た所に出掛けたり、知人の方より電話や面会に来てもらえるようお願いしている。	も、行き続けている利用者やお墓参りを続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。知人や親戚の人が来たり、近所の方が自転車で遊びに来たり、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、皆で和気あいあい話したり、時には利用者同士で慰めあったりしている環境になっている。孤立しないよう職員が心がけ、皆で楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約解除になった後も、必要に応じ家族と連絡を取り合い、困ることのないよう相談にのり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話を聞く機会を積極的に設けている。出来るだけ本人の意向に添うよう家族の協力を得ながら話し、本人らしく過ごせるよう考え支援している。	個人的な関わりあいの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を察したり、利用者に聞けないときは家族や関係者から情報を得るようにしている。どのように暮らすことが最良なのかを考え支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の話などに耳を傾けたり、会話をする機会を設けている。困難な場合は家族から可能な限り話を聞き、把握に努めている。本人や家族共に話すことを拒否することもあるので、そういう時はあえて触れない配慮もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から様子を伺い、また、職員同士で日々の気づいたことや情報を共有することにより、その人の持っている力を維持し生活していけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の処遇会議で話し合い、検討している。会議以外でも要望や気づいたことに対して、日々チームで話し合い、介護計画に反映できるよう心掛けている。	利用者の視点にたって地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画を会議や申し送りノートにより、作成している。利用者や家族の日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りのノートに記入し、職員間で情報を共有している。日々変わることなので随時、臨機応変に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に柔軟な対応を心がけているが、既存のサービス規則に縛られてしまい、対応し難い現状もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握している部分もあるが、まだ掘り出しきれていない地域資源もあると思うので、幅広い視野をもち、安全で豊かにさせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族・本人よりかかりつけ医を聞いている。家族の協力を得ながら、受診をしている。また、必要に応じて主治医宛てに情報提供表を出したり、一緒に受診に付き添うなどし、関係づくりにも努めている。	入居前からのかかりつけ医を利用している利用者が、9人中6人いる。他の利用者は、グループホームの主治医(クリニック)に変えている。かかりつけ医は基本的に家族対応であるが、不可能な時には職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職には、気づきを心がけてもらっており、気づいたことは、随時、管理者・看護師に報告・相談し家族と話し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は情報提供を行っている。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応できるよう相談させてもらっている。馴染みの病院とは関係づくりができていますが、その他の病院とは連絡を取り合っていないこともあるため、今後つながりをもてるようしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先のことを考え入居時から本人・家族に意向や希望を話し合うようにしている。また、看護師にも助言してもらいながら対応している。家族が誤解せず、理解・納得して下さるよう話し合う機会を時折もうけ、時間をかけて取り組んでいる。	契約時に終末期についての事業所が対応し得る最大のケアについての説明を行っている。事業所として看取りは可能であるが、医療行為を必要とするようになった場合は、病院対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年一回は、救急法の内部研修を行い、実践力が身につくよう努めている。また、職員が講師となり、救急時の対応・連絡法についても研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、外出行事を利用し避難訓練を行っている。また、職員研修でも災害時の対応について起震車や消火器体験の研修も取り入れている。運営推進会議等を通して、地域の方に協力を要請し、体制を整えている。	地域の防災訓練に職員・利用者共に参加している。事業所独自では、年2~3回開催している。地域の消防団に協力を要請している。食料や飲料水などの備蓄もしている。	夜間を想定した訓練を消防署の立会いのもとの実施や地域の消防団との協力体制をより一層強化する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけたりしないよう声かけに配慮している。会議等で運営理念に触れ、徹底を図っている。	大きな声で言葉掛けをしないよう職員同士で徹底している。誘導の声かけなど本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮している。入居時、家族に利用者の名前の呼び方を確認して決めている。基本的には苗字で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に対応し遠慮せず話せる場を設けている。問いかけるような声かけを行い本人の意向を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人にあつた支援をするよう心がけているが、時間や都合で断念せざるを得ない時もあるので、工夫しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		今まで使っていた化粧道具を持って来てもらうようにし、おしゃれをすることを忘れないように支援している。定期的に美容カットをしてもらっている。また、希望によっては近隣の美容室や理容室へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		一人ひとりの好みを反映出来るよう要望があった場合は職員に伝え対応している。生活歴を活かして、毎食ごと準備から配膳・片づけを一緒にしている。「私がするわ」と率先して下さる方もいるため配慮しつつ行ってもらっている。		食料の買い物に火・金曜日に利用者と共にやっている。メニューは職員が作り、週2回夕食に於いては、利用者の希望を取り入れ可能な限り対応している。盛り付け・片付け等を利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気作りがされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		日々の状態を記録し、職員間で申し送っていきながら情報を共有し、その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後、その人その人に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		個々の排泄パターンを把握し対応している。ちょっとした合図にも気づけるよう努めている。		個人記録表をつけることにより利用者の排泄パターンを把握し、個別の排泄支援ができるよう支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、布パンツ・リハビリパンツ・パット類も本人に合わせて対応している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		排泄パターンをチェックしたり、早めに対応出来るよう心がけている。薬に頼る前に、水分量なども把握したり、必要に応じ起床時に水や牛乳などを飲んでもらうなどの対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		なるべく本人の希望に合わせて入浴できるよう心がけている。体調や希望に合わせて無理強いしない支援をしていくよう努めている。		午前午後どちらでも利用者のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴ができるよう支援している。週3回は入浴をして頂いている。入浴を拒否される利用者には「大きなお風呂にどうですか」と、お誘いして入浴支援を試みている。
46		○安眠や休息の支援		一人ひとりの様子に気を配り、自分からは言		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	えない人もいるため、声をかけ配慮している。夜間時にも、早めに眠るよう無理強いはしないようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に薬の説明書を綴っており、理解しておくようにしている。変動があった場合は申し送りノートによって伝え、気づいた事など記録するとともに、情報を共有するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある充実した日々を送れるよう心がけているが、一人ひとりへの対応に欠けてしまう場面もあり、まだ職員の工夫が必要である。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や隣接法人施設への行き来は日々の中で行っているが、普段行けない場所等どこまで可能な支援なのか把握しきれていない部分もあるため、市に相談するとともに出来る限りに対応していきたい。家族とも時間をかけ相談しながら協力していただける支援をしていきたい。	天気の様子で、週に4回位、甲府駅北口の藤村記念館や歴史公園等に行ったりする。レクリエーションとしてお花見等季節の行事で月に1回位出掛けることがある。年2回、春と秋に個別外出として利用者の行きたい場所や思いに添った支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等で職員が付き添うことにより、自分で品物を選び料金を支払い、楽しめるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一緒に寄り添い、本人自身が電話できるよう支援している。また、家族にも折をみて電話を下さるよう話しを協力してもらっている。手紙も字が苦手な方もいて最初からあきらめている方もいるので一緒にいけるよう心がけ支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りの物を飾り、手作りの居心地の良い空間を作るようにしている。限られた空間の中ではあるが、家庭的な雰囲気作りに努めている。	共用生活空間は、居心地よく過ごせるように、また、自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる場となるような工夫と配慮がされている。壁には行事の写真、今年の抱負、吊るし雛等が飾られている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場が少ないが、希望や状況により、職員と自室で話しをする対応をし配慮している。また、工夫が必要な事も職員同士で話し合い対応を考えていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物を持って来てもらい、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。	テレビやタンス・ポータブルトイレ等が持ち込まれ、居心地の良い居室作りに努めている。入り口には手作りの名前が飾られ、利用者の居室がわかるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間であることで、職員の目が届きやすく身体機能を把握しやすい。また、椅子などを頼りに歩こうとする意欲にもつながっている。		